

# ポスター発表セッション参加申込書

## ●発表者について

代表発表者	ふりがな		
	氏名 (グループ名: )		
	連絡先	〒	
		E-mail	
連名発表者	Tel	Fax	

## ●希望ポスター発表形式 (いずれかに○をご記入ください)

<input type="checkbox"/>	手書き
<input type="checkbox"/>	パワーポイント
<input type="checkbox"/>	その他( )

※パネルの発表スペースとしてA0サイズ(縦120cm×横85cm、A4用紙16枚分)のスペースをご用意しております。  
ご自身で印刷が難しい場合は事前にご相談ください。

## ●ポスター発表内容

タイトル
概要
ホームページへの掲載
備考 ※物品・器具・電気の使用等についてはご相談ください。その他要望事項があればご記入ください。

※物品の販売・金品のやりとりはできませんのでご了承ください。

もれなく記入の上、8月3日(日)までにFax、もしくはEメールにてお申し込みください。同じ内容をメールの文で書いて送っていただいても結構です。たくさんのご参加をお待ちしております。

●お申込み・お問い合わせ[不在の場合は留守番電話にメッセージをお入れください。折り返しお電話いたします。]

**Tel.&Fax.029-228-8110 Email tetsuji64@yahoo.co.jp** (茨城大学人文学部 伊藤哲司研究室)

あつまる、  
まじわる、  
つながる5

地域のサステナ活動をつなぐワークショップ

**2014年8月10日(日)** | 参加費無料  
予約不要  
上映&トーク&ポスター発表セッション

**場所** 茨城大学水戸キャンパス  
午前: 共通教育棟2号館10番教室  
午後: 環境リサーチラボラトリー

### 【プログラム】

9:30~ 開場  
10:00~12:30 映画『フタバから遠く離れて』上映

**GUEST TALKER 船橋 淳** 映像作家、『フタバから遠く離れて』監督  
※上映後、監督のトークを行います。

### 14:00~16:30 ポスター発表セッション

14:00~14:10 主催者挨拶  
14:10~16:00 ポスター発表タイム  
16:00~16:30 クロージング~終了

ポスター発表者  
募集中!!  
詳しくは中面をご覧ください。

フタバから  
遠く離れて



船橋淳

<http://sustainaworkshop.wordpress.com/>



主催: 茨城大学地球変動適応科学研究機関(ICAS) 協力: MeToo推進室  
後援: 茨城大学人文学部市民共創教育研究センター、茨城県水戸生涯学習センター

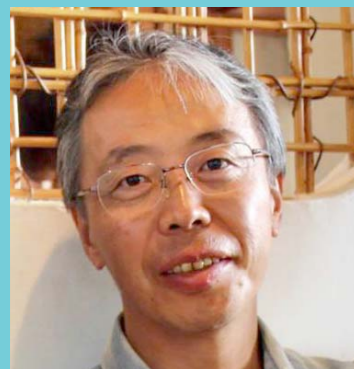
●お問い合わせ[不在の場合は留守番電話にメッセージをお入れください。折り返しお電話いたします。]

**Tel.&Fax.029-228-8110 Email tetsuji64@yahoo.co.jp** (茨城大学人文学部 伊藤哲司研究室)



# あつまる、まじわる、つながる5

地域のサステナ活動をつなぐワークショップ 2014年8月10日(日) 参加費無料 予約不要



主催者あいさつ ワorkshop実行委員長 **伊藤哲司**(茨城大学人文学部教授)

大学はこれまで、研究成果等を「発信」することは得意でも、情報を「受信」することは必ずしも上手くありませんでした。私たちは、「大学も情報の受発信が必要」という指摘をさらに進め、今回の企画で地域の人々のサステナ活動(持続可能な社会づくりに資する活動)を繋いでいく「ハブ化」の役割を果たしたいと思います。東日本大震災が発生し、福島第一原発の事故が起き、国や自治体、専門家が単純には信用されなくなった現在こそ、対話を重視した市民社会の中から叡智を紡ぎだしていかなければなりません。インターネットの編み目のように私たちが繋がっていくことなかから、新たな「安全・安心社会」の姿が見えてくるのではないのでしょうか。ぜひ私たちと一緒に、このネットワークにご参加ください。

## サステナとは?

サステナ(sustainability)とは、直訳すると「持続可能性」という意味です。この言葉は、私たちの未来に向け良い社会や自然環境を保ち続けていこうとする活動や考え方に主に使われます。今、私たちの周りでは地球環境問題や地域格差など多くの問題が存在しています。そして、これらの問題はすぐには解決できないものばかりです。私たち一人一人が「サステナ」を理解し、それを実践し、そして次世代に伝えていく事が多くの問題解決への第一歩となります。今回のワークショップも大切なサステナ活動の一つです。



GUEST TALKER **船橋 淳**

映像作家。東京大学教養 学部表象文化論分科卒業、ニューヨークで映画制作を学ぶ。長篇映画『echoes』は仏アノネー国際映画祭で審査員特別賞、観客賞を受賞。第2作『BIG RIVER』(主演オダギリジョー、製作オフィス北野)はベルリン映画祭、釜山映画祭でプレミア上映される。またニューヨークと東京で時事問題を扱ったドキュメンタリーの監督も続けており、アルツハイマー病に関するドキュメンタリーで米テリ賞を受賞。今作の撮影過程を記録した著書「フタバから遠く離れて―避難所からみた原発と日本社会(仮題)」を今秋出版予定。

<https://www.facebook.com/atsushi.funahashi.58>

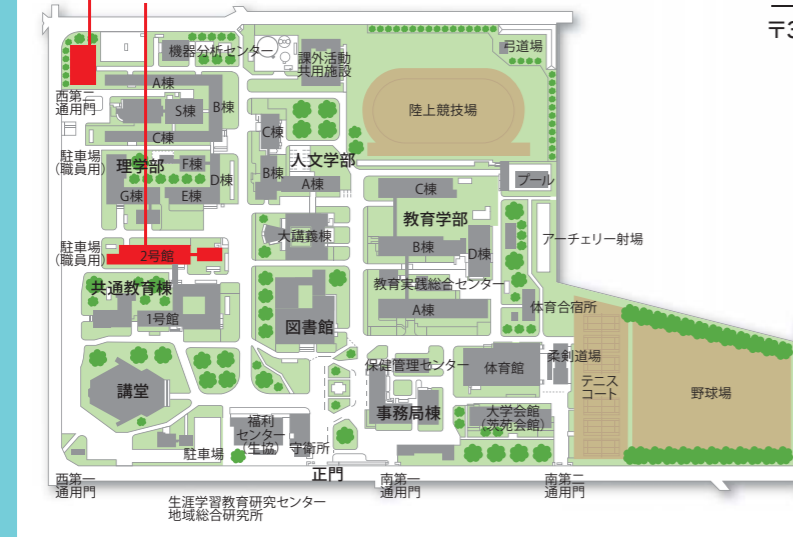
映画『フタバから遠く離れて』とは <http://nuclearnation.jp> 2012年/96分/日本

2011年3月12日  
双葉町民は1号機の水素爆発を耳にし「死の灰」を被った。町は全面入禁止の警戒区域となり、1400人が250km離れた埼玉県の高校へ避難。地域社会九と移転したこの高校は、まさに現代のノアの方舟と化した…  
双葉町長戸川克隆は、財政破綻した町を救うため7・8号機を誘致した原発推進派だった。しかし、町民が被爆に遭い、事故が長期化するにつれ、その信念が変化してゆく。建築作業員・中井祐一さんは津波により家を流され、母を失った。農地全てを流された父とともに避難所暮らしをしながら、震災翌日に予定された救助活動がヘント・水素爆発により中止となったことを悔やんでいる。原発事故により助からなかった命は少なくない、そう訴えつつ、次の人生を模索してゆく。避難から3ヶ月後初めて一時帰宅が許され、無人地帯となった故郷へ帰還する彼が見たものは…?  
原発により1960年代以降経済的繁栄が約束されてきた場所・双葉町。町民は、いまだ奪われた家・土地・財産の補償を受けず、5年以上とも言われる避難生活を続けている。高校の教室に費を敷き、10〜20人で寝食を共にする共同生活。毎日のお弁当で命をつなくも、肝心の原発事故は収束したのかどうか定かではない。時間が経つにつれ東北の復興が加速してきて、取り残されていく避難所の日々。先達国日本の片間で忘れ去られて行く人々。先の見えない待たけの避難所の時間をカメラは9ヶ月にわたり記録した。日本の原子力政策の成れの果てがここに凝縮されている。



放送大学茨城学習センター  
環境リサーチラボラトリー

共通教育棟2号館10番教室



## 開催場所 茨城大学水戸キャンパス

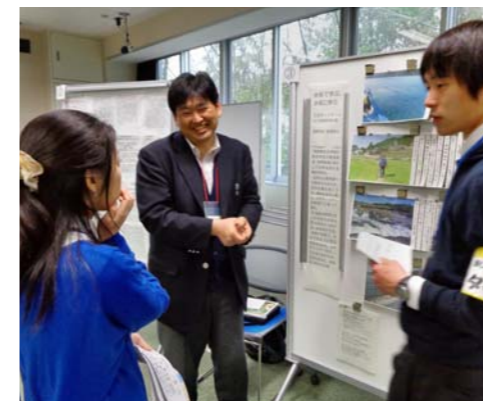
〒310-8512 茨城県水戸市文京2-1-1

【午前の部】  
映画『フタバから遠く離れて』上映  
『フタバから遠く離れて』監督・船橋 淳トーク  
共通教育棟2号館10番教室

【午後の部】  
ポスター発表セッション  
放送大学茨城学習センター  
環境リサーチラボラトリー

この日、学内には駐車スペースがないため、公共交通機関をご利用ください。詳しくは、下記サイトでご確認ください。  
<http://sustainaworkshop.wordpress.com>

## ポスター発表セッションとは? 参加者募集中!



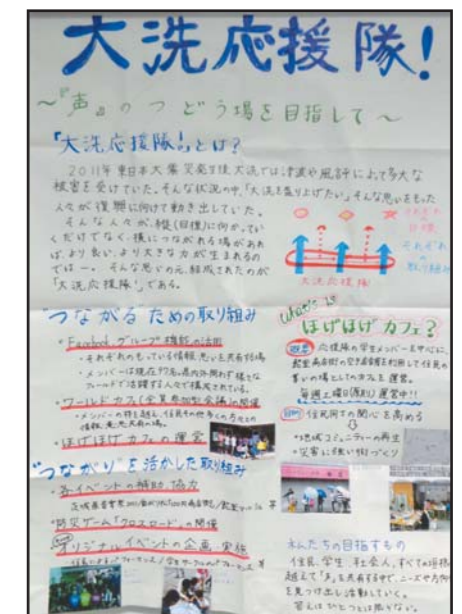
みなさんが行っているサステナ活動を基にポスターを作成していただき、それを見本市のように展示していただきます。ポスター発表とは主に学会などで用いられる発表形式です。発表者それぞれが自分の研究をポスターにまとめ、それを一堂に掲示し、発表者が他の参加者に説明や補足などをします。ポスターはパソコンのプレゼンテーション作成ソフトを用いて作られるのが一般的ですが、下記のように手書きのものも受付けています。また、A0サイズの用紙でなくとも、A4など小さいサイズの用紙をつなげてポスターにして頂いても構いません。いずれの場合も縦120cm×横85cm(A0サイズ)に収まるように作成して下さい。市民・職業人・学生・研究者などが対等の立場で語り合い、互いの活動を知り、みなさんであつまり、まじわり、つながりましょう!

### ●参加申し込み方法

裏面の申込用紙に記入の上、FAXいただくか、同内容を明記の上メールにてお申し込みください。ご自身で印刷が難しい場合は事前にご相談ください。

Tel.&Fax.029-228-8110 Email [tetsuji64@yahoo.co.jp](mailto:tetsuji64@yahoo.co.jp) (茨城大学人文学部 伊藤哲司研究室)

## ポスター制作例



ポスター発表ワークショップの着想と狙いについてまとめたものです。このポスターは Microsoft PowerPoint を用いて作成しました。

水戸における映画を通じた対話に関するプロジェクトをまとめたポスターです。

このように手書きのポスターも受付けています。ただし、パソコン・手書きどちらもA0(縦120cm:横85cm)に収まるようにお願いします。

## 参加者のみなさまへ「巨大名刺」持参のお願い

当日の交流をより楽しむため、A5サイズにて自分の紹介をレイアウトした「巨大名刺」持参をお願いしております。20〜30枚程度制作しご持参ください。原本をお持ちいただければ、当日コピーすることも可能です。不明な点はお問い合わせください。

茨城大学大学院 地域環境研究科  
持続可能社会ゼミ

さすてな たろう  
砂州手名 太郎

研究テーマ  
ウミガメの産卵地として有名なタイ王国プーケット島にあるマイカオ村にて、自然環境をどのように持続可能な観光産業(エコツーリズム)として成り立たせるかについて研究しています。  
E-MAIL: [ooooo@dd.co.jp](mailto:ooooo@dd.co.jp)